

## 令和3年度 東京都立町田高等学校全日制課程 学校経営報告

教育活動の取組内容	取組の結果
<p><b>【学校運営・組織体制】</b></p> <p>① 学校経営計画の実現に向けて、教職員一人ひとりが、執務ガイドラインに基づき組織的・計画的に学校運営に参画する。教職員の力を結集するため、本項目「3 今年度の重点目標と方策」の学校運営・学校経営、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動のそれぞれの項目から1つ以上、今年度、自分が果たすべき役割・達成する目標を選び、その手立てについて自己申告書に具体的に記載し、組織的・計画的に職務を遂行する。</p> <p>② P D C Aサイクルを実施し、校内組織の業務改善・効率化を図る。〔前後期年2回の実施し、職員会議又は校内研修で共有し、学校運営連絡協議会で報告〕</p> <p>③ 中学校及び塾訪問においては、本校の教育内容の周知に努めるとともに、中学生や保護者のニーズ及び本校に対する評価について情報収集を行い、募集対策や教育活動に反映させる。〔一人2校以上〕</p> <p>④ 業務の効率化・平滑化を図り、全教職員の在校等時間及び持ち帰り業務の削減を目指す。達成に向けて、自己申告書の自由意見欄に改善策の提言を行う。〔年間平均330時間以下、昨年度360時間〕</p> <p>⑤ 保護者対象の学校評価アンケートの回収率の向上を図る。〔保護者数の80%以上、昨年度74.5%〕</p> <p>⑥ 行政系職員が積極的に教育活動に提言を行い、経営参画型経営企画室の実現を図る。</p> <p>⑦ 校内研修会及び定期的に教科会を開催し、模擬試験等の結果分析、学習の進捗や定着状況について共通理解を図り、指導内容や進路指導に生かす。〔教科会月1回、校内研修3回以上〕</p> <p><b>【学習指導】</b></p> <p>① 日々の教育活動において、全教員が既にアカウントを配布している統合型学習支援サービスを活用した教育活動に取り組むなど、オンラインの積極的活用・定着に取り組む〔同時双方向のオンライン教育の実践〕</p> <p>② 生徒一人ひとりの学力を的確に把握するとともに、難関国立大学、国公立大学及び難関私立大学に合格可能な学力を身に付けさせるため、放課後の補習、土曜講習及び長期休業中の講習を講習委員会・進路指導部の計画の下、教科と連携して、計画的・組織的に実施する。〔年間1人3講座程度〕</p> <p>③ 週末課題や予習・復習が必要な授業を展開し、家庭学習等、授業以外の学習習慣の定着を図る。</p>	<p><b>【学校運営・組織体制】【B】</b></p> <p>① 多くの教員が執務ガイドラインに基づき、それぞれの職層に応じた、組織的・計画的に学校運営に参画した。一方、自己申告書に自分の取組みたいことのみ記載し、学校経営計画と関係のない目標を立てる教員や一般的・抽象的な目標を記載する教員も多く、学校経営計画に基づいて具体的に記載するよう指導する必要があった。来年度は、学校経営計画の目標をしばり、教員の力を集約する必要がある。</p> <p>② P D C Aサイクルを実施し、学校運営連絡協議会で報告を行った。職員会議や校内研修における共有まではできなかった。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年度も中学校及び塾訪問を中止した。学校説明会のアンケートから中学生や保護者のニーズの把握に努めたがアンケートには好意的な記述が多かった。</p> <p>④ 業務の効率化・平滑化を図り、全教職員の在校等時間及び持ち帰り業務の削減を図り、今年度1月末現在で年間平均353時間未達成 〔年間平均R02:356時間〕</p> <p>⑤ 保護者アンケート回収率80%以上達成 〔R03:83.5%, R02:83.6%〕</p> <p>⑥ 行政系職員が授業見学や給食体験を行い、学校教育について理解を深めた</p> <p>⑦ 年間で5～10回教科会を開催した。観点別評価、生徒による授業評価結果分析、共通テスト分析、進学指導について校内研修会を開催委した。</p> <p><b>【学習指導】【B】</b></p> <p>① ゴールデンウィーク及びシルバーウィークにおける自宅学習期間中は全ての教員がオンライン学習に取り組んだ。さらに、同時双方向の授業及び講習をオンデマンドで行う教員も増えてきている。</p> <p>② 土曜講習及び長期休業中の講習については、学年担任が中心となって担当する例が多く、組織的に実施した学年は一部の学年に留まった。講習委員会及び進路指導部が主導し、教科と連携して、計画的・組織的に実施する体制を引き続き構築する必要がある。〔年間1人平均2.8講座〕</p> <p>③ 多くの学年で昨年度より家庭学習時間が増加した。今後は量とともに勉強方法等、質も高める。</p>

1年生 平日平均 2時間以上が35% (昨年度31.3%)  
 土・日 4時間以上が20% (昨年度14.2%)  
 2年生 平日平均 3時間以上が35% (昨年度18.2%)  
 土・日 5時間以上が20% (昨年度11.5%)  
 3年生 平日平均 5時間以上が60% (昨年度60.1%)  
 土・日 6時間以上が80% (昨年度71.6%)

④ 教員相互で授業を見学し、互いの良い点を学び合う。見学結果を副校長に報告する。 [1人3回以上]

⑤ 全教職員が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。 [自習棟の監督年間2回程度]

⑥ 共通テスト5教科7科目受験者数を増やすとともに受験科目以外の科目についても満遍なく学習に取り組み、広く一般教養を身に付けさせる。 [共通テスト5教科7科目受験者150人]

⑦ 土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等について、各教科で年間計画を作成し、負担が偏らないように組織的・計画的に実施する。

⑧ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導を行う。講習・補習の充実 [1500時間以上 一昨年度1485時間]

**【進路指導】**

① 定期的な進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会をとらえて、難関校に挑戦する志の高い生徒を増やす。 [各学年難関国公立志望者10名以上]

② 保護者面談を実施し、進路情報を提供し、保護者の受験に対する意識を高め、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。 [各クラス年間1回以上]

③ 昨年度の卒業生の進路データを活用するとともに、今年度の3年生からも進路データの提供を依頼する。卒業生全員から回答を集め、提供同意者を増やす。 [提供同意者220名以上 昨年度200名]

④ 進路指導部、学年による「進路だより」を発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。 [月1回以上]

⑤ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト(各学年)、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。

⑥ データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、

1年生 平日平均 2時間以上が46% (昨年度31.3%)  
 土・日 4時間以上が27% (昨年度14.2%)  
 2年生 平日平均 3時間以上が14% (昨年度18.2%)  
 土・日 5時間以上が14.1% (昨年度11.5%)  
 3年生 平日平均 5時間以上が50% (昨年度60.1%)  
 土・日 6時間以上が82.1% (昨年度71.6%) 土曜

④ 教員相互の授業参観週間を設けて、模範授業を指名して実施委したが、平均1人1.7回に留まった。

⑤ 全教職員が協力して自習棟の監督を年2回程度実施したが、1・2年生の利用者が激減した。自習室の利用時間の延長を検討する必要がある。

⑥ 共通テスト5教科7科目フル受験者数は昨年度の128名から116名と減少した。学習に余裕がなく、受験科目以外の科目の授業を敬遠する傾向が強い。受験科目数を減らすため国立から私立に志望変更した例もあった。

⑦ 放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等について、各教科で年間計画を作成したが、3学年を除いては、結果的に学年担任中心の講習会実施になった。

⑧ 外部機関と連携した生徒による授業評価を実施。結果を基にして、校内研修会も行った。夏季講習のクール数及び日数が取れず、時間が減少した。 [1005時間 一昨年度1485時間]

**【進路指導】【B】**

① 進路指導計画に基づき、進路講演会、学年集会、二者面談等、難関大学に挑戦するよう指導したが、上位層は指定校推薦に流れ、実際に受験した生徒は12名だった。 [1年生11名、2年生12名3年生12名]

② 保護者面談を希望する保護者に対してのみ面談を実施したので家庭と連携した高みを目指す指導ができなかった。 [各クラス5名前後]

③ 今年度の卒業生には、昨年度の卒業生の進路データを配布し、実際に活用させた結果、今年度の卒業からデータ提供者が263名に増加した。

④ 進路指導部及び学年からの「進路だより」はほぼ月1回発行できた。

⑤ 進路指導部・講習委員会が中心となり、各種講習、夏の学校、春の学校、実力テスト(各学年)の実施に向け、早期の計画の策定を行ったが、第2学年の土曜講習の実施が遅れた。講習委員会の機能を強化する必要がある。

⑥ 模試分析会、出願検討会には、当該学年の学級担任、進路指導部及び教科担任の一部しか出席せず、

高みを目指す進路指導を行う。授業、進路便り、進路説明会等の機会に教養の重要性を伝え、共通テストフル受験者を増やす。

[150名以上 昨年度128名]

- ⑦ 教養の重要性を伝えるとともに難関大学への受験者を増やし、共通テストの成績向上を図り、難関大学への合格者を増やす。

[1年生18名、2年生22名 3年生11名]

共通テスト総合得点率 80%以上、受験者の15%以上  
(R02:6% H31:12% H30:13%)

現役大学合格者 国公立大60名 (R02:58名 H31:45名)  
難関私大30名 (R02:26名 H31:38名 H30)

- ⑧ 卒業学年の担任団、新3学年の担任団及び進路指導部で年度末に進路指導引継ぎ会を行う。

### 【生活指導】

- ① 時間を大切にし、時間を守る生徒を育成するため、チャイム始業・チャイム終業を徹底する。  
② 人権意識を高め、SNS等に個人情報を投稿したり、ネット上で誹謗中傷を行わないよう指導する。  
③ 出勤時・授業中等あらゆる機会を捉え、交通ルールを守らせ、とくに登下校の際のマナー向上を図る。  
④ 教職員自ら挨拶の励行に努め、明るく活気のある学校づくりに取り組む。

### 【特別活動】

- ① 学習活動と特別活動(部活動・学校行事等)の両立ができるように生徒の自律心を養うとともに、適切な指導・助言の下、生徒の主体性を育成する。  
② 生徒の主体的活動を支援し、HR・部活動・委員会活動・学校行事の活性化を図り、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを体験させ、生徒に成就感・達成感を享受させる。  
③ HR・部活動・委員会活動・学校行事の取組において、話し合い活動を重視し、コミュニケーション能力の育成や自己理解・他者理解を深めさせ、望ましい人間関係の在り方を学ばせる指導を展開する。  
④ オリンピック・パラリンピックの精神の涵養を図るため、各教科における学習、研究発表及び講演会等によるオリンピック・パラリンピック教育を通して、生涯にわたりスポーツに親しみ、持続可能な社会への理解と豊かな国際感覚を醸成する。  
⑤ 主体的に部活動や学校行事に取り組みせ、充実した高校生活を過ごさせることにより、自信と愛校心を高める。

### 【部活動】

- ① 部活動では、高い目標を設定し、困難な場面を乗り越える力の育成に努め、達成感を体験させることで、生

下の学年への継続性がない。また、卒業後、3学年と2学年の引継ぎがないため、前の学年の反省点が生かされない。共通テストフル受験者は116名であった。  
(R03:116名 R02:128名)

- ⑦ 進路講演会、学年集会、二者面談等、難関大学に挑戦するよう指導したが、上位層は増えなかった。

[1年生11名、2年生12名 3年生12名]

共通テスト総合得点率 80%以上は、数学等一部の強化が難化したため、0%であった。

(R03:0% R02:6% H31:12%)

現役大学合格者 国公立大 (R03:57名 R02:58名)  
難関私大 (R03:28名 R02:26名)

- ⑧ 予定通り3月に進路指導引継ぎ会を行った。反省事項や情報提供、積極的な質疑応答があり、大変有意義な引継ぎ会となった。

### 【生活指導】【A】

- ① 時差登校の影響で授業が40分に短縮されているため、チャイム始業・チャイム終業は徹底している。  
② 今年度は、SNS関係の課題は発生しなかった。  
③ 毎朝、生活指導場が校門に立ち、検温とともに遅刻指導、登下校の交通ルールの徹底を行った。  
④ 自分から挨拶をする生徒が増え、校内の雰囲気は明るくなった。

### 【特別活動】【B】

- ① 今年度は学年別ではあったが学校行事を行うことができた。部活動においても練習試合や定期公演を行うことができた。  
② 文化祭、体育祭や球技大会、修学旅行の代替行事等、生徒の主体性を発揮する機会を提供した。仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを体験させ、成就感・達成感を享受させることができた。  
③ 昨年度より、委員会活動が増え、コミュニケーション能力の育成や自己理解・他者理解を深めさせ、望ましい人間関係の在り方を学ばせることができた。  
④ 各教科における学習等を通して、オリンピック・パラリンピックの精神の涵養を図った。延期になったオリンピックが身近なところで開催され、生涯に渡りスポーツに親しむ感覚が醸成されるとともに、国際感覚を磨く良い機会となった。  
⑤ 新型コロナウイルス感染防止という制限がある中、主体的に部活動や学校行事に取り組みせ、自信と愛校心を高めた。

### 【部活動】【B】

- ① 感染防止に取り組みながら、年に近い活動を行うことができた。多くの部で大会も開催され、日ごろ

徒の自信や自尊感情を高める。

[都大会本戦出場 3 部以上]

- ② 効率的な学習指導を行うとともに「切り替えと集中」について指導し、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。

[部活加入率 90%以上]

#### 【生徒募集・広報活動】

- ① 広報誌の発行回数・部数を増やし、配布先も広げる。中学校訪問・塾訪問の際の訪問マニュアルを作成し、中学校や地域に対する募集・広報活動の改善を図り、入試倍率の向上に努める。[推薦に基づく選抜 2.6 倍以上、学力検査に基づく選抜 1.4 倍以上]
- ② 学校説明会、学校見学会等の充実を図り、中学校訪問、塾訪問、各種説明会等に積極的に参加する。  
[外部の説明会、中学校訪問・塾訪問等、年間 3 回以上]  
[学校説明会参加人数 1300 名 昨年度 917 名 (他オンライン参加者 509 名) 一昨年度 1169 名]
- ③ 小学生対象、塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 [70 名 昨年度 66 名]
- ④ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。  
[年間 1 人 1 回以上]
- ⑤ HR 通信・学年通信の発行や地域・保護者による授業参観を通して積極的に本校の教育活動を発信する。また、部活動、学校行事及び本校の特色を紹介する広報誌を年間に 3 回程度中学校・地域に配布する。
- ⑥ iPad 及び HP を活用して、本校の教育内容を本校生徒の保護者、中学生・中学生の保護者に発信する。  
[HP240 回以上 昨年度 223 回]
- ⑦ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 [4000 名 一昨年度 3681 名]
- ⑧ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図る。

#### 【安全・健康塩津・美化指導】

- ① 原則として、1 学年の 1 学期中に「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。
- ② 避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、「防災ノート」、防災講演会など通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成する。
- ③ 公共の精神を高め、公共スペースの清掃や整理整頓に自発的に取り組むとともに、交通マナーを守り、通学路における譲り合いのできる生徒を育てる。
- ④ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、日々、

の成果を発揮することができた。バトントアリング部をはじめ、都大会以上に出場した部は 4 部あった。

- ② 「切り替えと集中」をつねに意識させ、新型コロナウイルス感染防止により、一層限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせた。部活動や学校行事も時間が限られているので、両立は困難ではなかった。

[部活加入率 97% 運動部 62.2%文化部 24.8%]

#### 【生徒募集・広報活動】【C】

- ① 今年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、中学校訪問・塾訪問は中止した。  
[推薦に基づく選抜 2.16 倍、学力検査に基づく選抜 1.29 倍]
- ② 学校説明会、学校見学会等の充実を図った。オンラインの説明会も実施した。  
[外部の説明会 2 回、中学校訪問・塾訪問は中止、]  
[学校説明会参加人数 1364 名 (他オンライン参加者 981 名) 昨年度 917 名]
- ③ 小学生対象、塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 [40 名 昨年度 66 名]
- ④ 新型コロナウイルス感染防止の観点から今年度は出前授業のみ実施した。  
[年間 1 回 1 人]
- ⑤ HR 通信・学年通信の発行は行ったが、授業参観は新型コロナウイルス感染防止の観点から実施しなかった。広報誌を年配布できなかった。
- ⑥ iPad 及び HP を活用して、本校の教育内容を本校生徒の保護者に発信した。  
[HP:138 回 昨年度 223 回]
- ⑦ 中学生、地域の方や保護者対象の公開を行わなかったので在校生のみの来場者となった。
- ⑧ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図った。

#### 【安全・健康指導・美化指導】【A】

- ① 「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行った。 [1 学年で実施]
- ② 避難訓練、上級救命講習を実施するとともに、防災ブック「東京防災」などを通して、自助の精神を醸成した。今年度は、町田市の防災課及び近隣自治会と連携して、避難所開設に向けた協議を行った。来年度は、実際に避難所開設訓練等を実施する。
- ③ 日々の清掃や整理整頓を徹底させた。大掃除を軸として校内美化に取り組む。学校説明会等と連動した清掃計画が不十分だった。
- ④ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、校内

<p>校内美化に努める。</p> <p>⑤ 環境教育及び持続可能な社会の発展に向けた教育を通して、ゴミの分別・削減、節電を推進する。</p> <p>⑥ 総合的な子供の基礎体力向上方策を参考して、早期から基礎体力向上に取り組み、生涯にわたりスポーツに親しむ心と体を育てる。 〔生徒体力・運動能力において5種目で都平均以上〕</p> <p>⑦ 命を大切にする教育を推進するため、企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが、連携を密にした組織的な指導を行う。</p> <p>⑧ 地域と連携した防災訓練、避難所設営・運営訓練などの体験的・実践的な訓練を通して他者や地域の安全を支える能力を身に付けさせる。</p> <p><b>【国際理解教育】</b></p> <p>① 国際理解教育として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流を推進する。</p> <p>② オリンピック・パラリンピック教育を推進し、授業、特別活動及び部活動において、体力・技術力の向上を図るとともに国際理解教育の充実を図る。</p> <p>③ 実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。〔全校生徒の60%以上〕</p> <p>④ 茶生花部、和太鼓部及び剣道部の生徒を始めとして、生徒に日本の伝統・文化の良さを理解させるとともに他国の伝統・文化を尊重する態度を身に付けさせ、海外学校間交流推進校として、交流活動や海外語学研修等において互いの文化について交流ができる生徒を育成する。</p> <p><b>【施設設備管理・経営企画室運営】</b></p> <p>① 施設設備の安全確保のための校内見回りを関係者が分担して実施する。〔毎日実施〕</p> <p>② 校長に対して自律経営推進予算の執行状況を定期的に報告する。〔月1回〕</p> <p>③ 予算は、第三四半期までに概ね執行する。〔執行率60%以上〕</p> <p>④ 校長に対して、授業料、学校徴収金の納入状況、就学支援金、奨学のための助成金等の申請・可否の状況を定期的に報告する</p> <p><b>【特別支援教育】</b></p> <p>① 発達障害のある生徒に対する支援方法について校内研修を実施する。〔年間1回程度〕</p> <p>② 発達障害等により特別な支援が必要な生徒について、スクールカウンセラー、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等を通して組織的な支援を実施する。〔ケース会議に向けた個別指導資料の作成〕</p>	<p>美化に努めた。</p> <p>⑤ 持続可能な社会の発展に向け、ゴミの分別・削減、節電を推進した。</p> <p>⑥ 体育の授業で毎時間基礎的なトレーニングを行うとともに種目の特性を生かして体力の向上を図り、男女とも全学年で都平均を9種目中、7種目上回った。</p> <p>⑦ 企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが連携し、生命尊重の教育を実施した。</p> <p>⑧ 消防署と連携した防災訓練や上級救命訓練などを通して、自助・共助の精神を醸成した。</p> <p><b>【国際理解教育】【B】</b></p> <p>① 海外語学研修、留学生の受入、次世代リーダー育成道場については、すべて中止・延期となった。春休みに希望者を対象にオンライン国際交流を行った。</p> <p>② 授業等を通して、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、体力・技術力の向上を図るとともに国際理解教育の充実を図った。</p> <p>③ 4技能を習得させ、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせた。〔全校生徒の67%〕</p> <p>④ 茶生花部、和太鼓部及び剣道部の生徒を始めとして、生徒に日本の伝統・文化の良さを理解させるとともに他国の伝統・文化を尊重する態度を身に付けさせ、互いの文化について交流ができる生徒を育成した。</p> <p><b>【施設設備管理・経営企画室運営】【B】</b></p> <p>① 施設設備の安全確保のための校内見回りを関係者が分担して実施し、施設管理に努めた。〔毎日実施〕</p> <p>② 校長に対して自律経営推進予算の執行状況を概ね月1回報告した。</p> <p>③ 修学旅行が中止になるなど、予算が第三四半期でも余ってしまった。〔執行率53.2%〕</p> <p>④ 授業料、学校徴収金の納入状況、就学支援金、奨学のための助成金等の申請・可否の状況を定期的に報告し、至急漏れや遅れがないように務めた。</p> <p><b>【特別支援教育】【B】</b></p> <p>① 発達障害のある生徒に対する支援方法について校内研修を実施できなかった。〔年間0回〕</p> <p>② 車いすが必要な生徒について、SC、外部機関、保護者との連携を図り、ケース会議等の開催を通して支援及び合理的配慮を行った。 〔個別指導資料を作成するケースはなかった〕、</p>
---	--